

堺のヒト・モノ・世界をつなぐ

堺IPC

SAKAI CITY INDUSTRIAL PROMOTION CENTER
www.sakai-ipc.jp

PRESS



●特集

移転企業に聞く「堺の魅力」

ハグルマ封筒株式会社 / 株式会社津守合金製作所 / 有限会社三神製作所

●モノダン×モノジョ……………8

「東日本大震災の衝撃で、超音波探傷検査の道へ。」

株式会社計測工業 芝雄大さん

●さかいモノ語り……………11

「ふるるん、ゼリーのような石けん」

ひあるん玉せつけん

2014.10
VOL.

33



case
01
歴史に甘えず、
時代にアンテナ

50年以上前のドイツ製活版印刷機械と、それを丁寧にメンテナンスしながら使いこなすベテラン技術者が活躍する一方で、現代的なデザインのオリジナル製品が次々と若い才能によって生み出されている。創業百周年を控えて、「温故知新」という言葉がふさわしい老舗封筒メーカー。

海外進出のきっかけを堺から。

ハグルマ封筒株式会社 杉浦正樹社長

創業時より本社を堺市内に構える企業が多くある一方で、新たに市外から拠点を移してこられる企業も少なくありません。なぜ、堺だったのか。ずっと内にいれば見えないものが、こうした企業のトップの方には見えているのではないだろうか。今号は、近年に堺市内に移転してこられた3社に、「ものづくりの街・堺」の魅力についてうかがいました。

多彩な素材と加工技術を駆使し 高付加価値製品へシフト

1918年の創業時より主に業務用封筒を手がけてきたハグルマ封筒。この十数年で、ビジネス上のやりとりはもちろん、消費者に向けての販促活動も電子媒体に取って代わられるようになり、封筒の需要は減少しています。そうしたなか、同社にはアパレルやジュエリーなどブランドイメージを重視する企業からの発注が増えてきたとか。多彩な素材や加工技術、そしてデザインのノウハウが認められてのことでしょう。

受け取り手のステイタスをくすぐる「捨てられない封筒」の提案。そこに注力、特化していききたいと杉浦正樹社長は語っています。

同社の関連会社として、東京の表参道や大阪の心斎橋に outlet している手紙

用品専門店「ウイングド・ウィール」には、デザイン性の高いカードや封筒などが店頭を飾り、招待状や名刺のオーダーメイドも受け付けています。個人の方への手紙文化の発信拠点であるとともに、法人のクリエイターなどに向けてのプレゼンテーションの場も担っているようです。

事業の再構築をめざし 製販を集約した本社を堺へ

ハグルマ封筒が本社を堺市に移転させたのは2010年7月。事業の再構築を進めるなかで、4カ所に分散していた事業所を一カ所に集約して効率化を図ることがねらいでした。

「それまで本社のあった松原市では、周辺に住宅が建て込み、敷地を拡張することはできませんでした。そこで移転先を探したところ現在地を紹介してもらい、大阪市内にあった営業所と2カ所の工場、そして物流拠点をここに集めることができました。90年以上の歴史の中でも大きな転機の一つに数えられるでしょう」と杉浦社長。

期待通り、効率化によるコスト削減を図れたうえに、短納期の実現につながったといえます。その理由の一つには、お客様に直接対応する営業と生産現場のコミュニケーションが密になったこともあげられますが、

距離が近くなったからといって人間関係が密になるわけではありません。「月に1回、異なる部署の社員をグループピングしてワークショップを開き、当社の『共有する価値観』についてディスカッションを行っています」と杉浦社長。ハードとソフトの両面から製販の一体化に取り組んだことが大きな成果を生み出したといえるようです。

NYギフトフェアの堺ブースで初めての海外展示会を実現

さて、堺市に本社を移転して4年目。「行政がとても近い」ことを実感すると杉浦社長は語ります。

「以前は大阪府の管轄にあつたせいか、行政の支援を身近に感じることはありませんでした。堺市は中小企業のサポート力が高いと思いますね。2〜3年前から『ニューヨークインターナショナルギフトショー』の堺市ブースに出展しているのも、堺市産業振興センターからの提案です。初めての海外展示会という不安も払拭していただきました。アメリカに新しい取引先が開拓できただけでなく、参加させた社員のモチベーションアップにもなっています」。

今ではすっかり堺の企業の一員に。「メイドインさかいフェア」に積極的に参画しているほか、堺市の「環

境チャレンジ企業認定」で、同社が独自に開発した封筒「エコフレンドリーカラー」が認定を受けています。「当社が毎年開催している『かるた市』で、紙や堺の魅力を発信している『紙カフェ』さんとのコラボも果たしました。堺には多くの優れた企業があるので、今後何かでコラボレーションできないかと期待しているところですよ」と杉浦社長。

今年1月には、フランスの展示会『メゾン・エ・オブジェ』にウイングド・ウィールを出展し、百貨店や小売店への販路開拓を実現したハグルマ封筒。堺とのつながりの深い東南アジアも含めて、視野は大きく海外に広がっています。

東南アジアからの人材の雇用で多様性を備えた企業へ

「ベトナム領事館もある堺市は、ASEAN（東南アジア10か国から成る東南アジア 諸国連合）に非常に近く、生産拠点というよりは市場として視野に入れていきます。ベトナムから人材を雇用することで、社内の多様化、ひいては標準化を図りたいとも考えています」と杉浦社長。海外展開を進めるなかで「井の中の蛙」からの脱却をめざす。



ハグルマ封筒株式会社



▲古紙配合率40%以上で、無塩素漂白パルプを使用した「エコフレンドリーカラー」。

▲フランスの「メゾン・エ・オブジェ」に初出展したウイングド・ウィールブース

代表者名／代表取締役 杉浦正樹
 本社／堺市東区八下町 3-50
 TEL／072-252-8963
 設立／1918年創業 1936年設立
 資本金／5,200万円
 従業員数／110名
 事業内容／業務用・家庭用封筒、各種紙製品の企画・製造・販売
<http://www.haguruma.co.jp/>



|||||
c a s e
02

全工程を管理する
総合メーカー

同社の他社にない強みは、船舶機装
金物の総合メーカーであるというこ
とだ。企画・設計から始まり、鋳造、
めっきといったあらゆる工程を全て
管理し、完成品で納入することが得
意先に大きな利便性を提供してい
る。また、自社開発製品「TAC」ブ
ランドも好評だ。



次代に託す新社屋を堺で。

株式会社津守合金製作所 石川良一社長

**飛び込み営業をきっかけに
プレジャーボート業界に参入**

かつて船具問屋が密集していたという安治川や木津川の河口一帯。津守合金製作所も1948年に、大阪市西成区津守で漁船関連部品の製造所として創業しました。現在の事業の柱であるプレジャーボート業界にシフトしたきっかけは、石川良一社長がまだ大学に通いながら家業の手伝いをしていた頃に遡ります。

「父親と違う業界のものづくりをやってみたいと考えていたんです。ちょうどその時、たまたま目にしたのが、国内で先駆けてレジャー用モーターボートを売り出し始めた大手発動機メーカーの広告でした。『船と海、これだ!』と誰の紹介もないのに営業に出かけました。持つて行った漁船用部品には興味を示されませんでした。が、アクセサリパーツとしてのほしごを作ってみないかと持ちかけられ、それがきっかけでさまざまなボートアクセサリを製造するようになりました。ついには本社から、ボート本体の純正部品まで発注されるようになったのです。」

当時はマリソリゾートブームの走り。メーカーも部品のほとんどを輸入品に依存していたといいます。メーカーが国産化を模索していたタイミングでのアプローチで幸運だったと

石川社長は語りますが、最初に持ちこんだ漁船用部品の品質の高さが評価されていたことだったのでしょう。その発動機メーカーは、40年以上を経て今も、主要な得意先の一つです。

交通の便の良さに大きな魅力 新社屋も堺市内に竣工

2007年、社屋の老朽化を理由に堺市堺区へ移転。その3年後に美原区で新社屋を竣工しました。

「堺区の社屋が手狭になり、また息子が事業を継いでくれることが正式に決まったので、土地を購入して社屋を新しく建てようということになったのです」と石川社長。新本社は、製品の搬出・搬入を考え、駐車スペースに余裕が持てる広い敷地であることを条件に探しましたが、堺市内の地価は高く、一時は泉南地域も候補地として考えられたとか。それでも堺に本社を置く魅力は、堺区にいた時に実感されたといいます。

「何といつても堺は交通の便が良いのです。慢性的に渋滞している高速道路を通らずに済み、地方から来られるお客様先にもぜひいぶんとアクセスが良くなったと喜んでいただきました。また協力会社の多い東大阪や八尾にも便利です。ここは準工業地域であることもありがたいですね」（石川社長）。

希望通りに駐車スペースを確保で

きたことで、得意先企業の来社が増え、また在社時間も延びたそうです。そうしてコミュニケーションが密になることが、ビジネスチャンスにつながるのだと石川社長は強調されます。

「ものづくり経営大学」など 支援事業を積極的に活用

堺市への移転で驚いたのは、中小企業への支援体制の厚さだったと語るのは石川良隆専務です。

「堺市産業振興センターのほうから訪ねてきて、いろいろな支援制度を紹介してくれました。大阪市内にいる時には一度もなかったことです。そこで紹介された『ものづくり経営大学』を受講しましたが、ものづくり企業に特化した経営ノウハウを学び、そのまま忠実に実行すると、銀行に驚かれるほど業績が向上しました。『自社の強みを見つける』ことの重要性を教えてくれたのも経営大学です」と石川専務。

移転してくるまでは、『大企業を中心に完結された企業ムラのようなものがあり、外から入りにくい』というイメージがあつたそうですが、実際には独立したもののづくり企業が数多くあり、センターを通して紹介してもらったこともあるといいます。

「面白いことに、外の方にはやはり、堺は自転車と刃物の町というイメージが強いんですね。移転してから、自転

車の部品や刃物の発注が舞い込むことも（笑）。しかしそのおかげで、イロカの解体用など漁具としての刃物の需要があることを知り、その分野も攻めてみようかと考えているところですよ」と語る石川専務。社長の遺伝子もすっかりと継承されているようで、これからも「依頼された仕事、課題にNOは言わない」主義で、船舶金物の製造技術を活かして、建築部材や機械部品の製造にも積極的にアプローチされていくと語られています。

「その時にもぜひ、堺市産業振興センターさんにいろいろ相談させてもらいます！（笑）」

石川専務の発案で、 経営者の人となりが見えるHPに

同社のHPに上げられた二人の挨拶が、ミニ自叙伝のようでユニーク。小学生時代から石川社長は鉱石ラジオ作りに、良隆専務はパソコンの改造に夢中になったエピソードが、二人がいかにものづくりが好きかを語っている。



株式会社津守合金製作所



「図面のない注文にも、3D/CADによる生産図面の作成から試作模型の製作も自社内で対応。ポータークセサリーの「ロッドホルダー」（左上）は人気製品。」

代表者名／代表取締役 石川良一
本社／堺市美原区多治井 294-1
TEL／072-363-5400（代）
設立／1948年創業 1956年設立
資本金／1,000万円
従業員数／3名
事業内容／金属部品を中心とするプレジャーボート機装品の設計・製造・販売
<http://www.tumori.co.jp/>



case
03

オンリーワン製品の
提案開発型企业へ

金属プレス加工を中心とした金属板・パイプ・線材の各種加工・溶接・組立までを行い、得意先に完成品として納入する。オンリーワン製品の「提案開発型企业」として、得意先企業にさまざまな工夫を提案し、採用されている。自社開発製品に刻まれる「3GOD」は誇りの証でもある。



絶好の立地で事業を拡大。

有限会社三神製作所 松山昭博社長

**特許取得製品を持って売り込み
大口顧客を獲得**

壁にずらりと並んだ特許証。プレス加工だけを請け負っていたのではビジネスが拡大しないと、松山昭博社長が自社ブランドの開発をめざして取得した特許の数々です。

三神製作所は1975年に大阪市平野区で創業。プレス・板金による電気や空調設備、配管などの器具の製造を得意とし、10年近く前からは、委託された加工だけでなく、自社オリジナル製品の企画、開発、製作に注力してきました。

「しかし、一つも具体的な発注につながらなかつたんですわ(笑)」と語る松山社長ですが、そうした製品を持つて営業をかけた結果、5年前には電気や給排水、ガス設備資材の大手メーカーを得意先として獲得しました。

「それまで樹脂製品を得意とするメーカーさんで、鉄製品をあまり扱っていなかったのが、本格的に鉄加工製品も展開していこうとしていた矢先らしく、もつと提案が欲しいと言われたのがきっかけでした」と松山社長。数々の特許を取得するほどの同社の高い開発力と技術力が認められたのです。

その大口顧客からの発注量が、当時の工場の稼働能力を超えることが

見込まれた時に松山社長は、本社工場の移転を決断しました。

操業時間に制約を受けずにフル回転できる新工場へ

プレス加工業は大きな音と振動を発生させるため、周囲に住宅のあった移転前の東大阪市の工場では、操業時間に制約を設けていました。取り決めた終業時間を1分たりとも越えることはできません。

繁忙期には時間の制約を受けずに工場を稼働させたい。その希望を叶えてくれる工場地を、知り合いの企業の紹介で堺市美原区に見つけることができたのが今から5年前、2009年のことです。

新工場では、面積もそれまでの70坪から300坪に。大型精密プレス加工機の導入も実現しました。

「周辺に住宅が全くないばかりか、山に囲まれているので音が遠くに広がらず、プレス加工業としてはこれ以上ない立地だと思っています。今では、200トンから250トンクラスの機械を20台導入。売り上げの拡大に貢献しています」と松山社長。

三神製作所ならではのアイデアを積極的に提案し、またそれを形にすることができる確かな技術力があることから、得意先企業から高い信頼を得て、今では特に営業に回らなく

ても、紹介によって得意先が広がっているといえます。

得意先企業や協力企業のマッチング支援を受けて

ところで、移転してくるまで松山社長が堺市に抱いていたイメージは、大企業の多い町だったそうです。

「東大阪はお父ちゃん、お母ちゃんだけの家内工業的な小さな町工場が多かったのですが、堺のものづくり企業はもう少し規模が大きいのはという印象を持っていました。驚くのは、こうしたものづくり企業への支援が充実しているということですね。こちらから相談もしない時に、堺市産業振興センターから訪問してくれました。これまでは自分から訪ねていかない限り、話を聞いてもらえることはありませんでしたよ」と松山社長。センターからは塗装業やメッキ加工業といった協力企業を紹介されたほか、得意先企業とのマッチングもあつたとか。センター主催のセミナーも活用されたといえます。

2009年に工場を移転した時点では、本社は東大阪市荒本に置かれていましたが、2012年に本社を美原工場に集約した松山社長。「これまで迎え入れていた中国人の研修生や留学生に加えて、最近ベトナム人

も2人、工場で働くようになりました。根気強く仕事丁寧な女性にもますます活躍してもらいたいと考えています。今後ずっと、この堺を本拠地に事業を広げていきたいですね」と意気込みを語っています。

大変な労力とコストを要しても本社を移転されたのには、先を見据えた経営判断がありました。その3社が一緒に語られたのは、堺市の「ものづくり企業への支援」が身近で、充実していることです。これからも堺市産業振興センターは企業に寄り添うベストパートナーでありたいと考えています。

有限会社三神製作所



▲特許第一号の「丸ベールサドル(右)と、同社の加工技術の高さを如実に物語る「電気ボックス(左)。浮き彫りされている円形は必要な数に応じて簡単に打ち抜けるようになっている。

代表者名/代表取締役社長 松山昭博
本社/堺市美原区平尾 648-5
TEL / 072-362-3686
設立 / 1975年創業 1996年設立
資本金 / 300万円
従業員数 / 15名
事業内容 / プレス加工、板金による電設用金具・精密板金用部品・店舗用金物・給排気筒・建物用金物・家庭用金物・一般作業機械部品・アングル架台・配管部品の企画・開発・製作
<http://www.mikamiss.jp/>

自社開発製品のロゴ「3GOD」は社長の似顔絵とともに商標登録

同社ホームページにもさりげなく掲げられているユニークな顔マークは松山社長の似顔絵。「三神」という社名にひっかけた自社開発製品のロゴ「3GOD」の商標登録した際には、この似顔絵もセットで登録されているとか。





「夏休み探検学校」

工場を見学し、 ものづくりにチャレンジ！

「夏休み探検学校」は、さまざまな体験を通して次代を担う子どもたちに堺の魅力を発見してもらうことを目的に行われる堺伝統産業会館の特別イベントです。3回目となる今年も、和菓子づくりや線香づくり、堺注染の絞り染め体験、マイ包丁づくりなど、堺が全国に誇る伝統産業を中心に5種類の体験教室を8回（一部2回開催）開催しました。各教室とも定員をはるかに上回る応募があり、厳正な抽選で参加者が選ばれました。

8月23日に開催された「堺線香の工場見学と線香づくり体験教室」と「堺注染の工場見学と絞り染め体験教室」は、実際にものづくりの現場を訪ねる工場見学と体験を組み合わせて実施されました。

線香づくりでは、堺伝統産業会館の近くにある株式会社薫明堂を訪問。工場では押し出し機から出てくる線香の材料を盆板に受けて一定の寸法に切る「盆切り」などを体験しました。乾燥前の柔らかい線香を一定寸法にするのはなかなか難しい作業ですが、参加した子どもたちは堺線香工業協同組合の職

人さんたちの助けを借りながら果敢にチャレンジしていました。また、同会館に戻って型抜きでオリジナルの線香をつくりました。

午後に実施された堺注染の体験教室は、同会館からマイクロバスで西区津久野町にある株式会社北山染工場に移動。職人さんたちが糊付けや染め上げの作業をされる工程を間近で見学したあと、絞り染めを体験。白い布が赤や青の鮮やかな色に染まる作業に子どもたちも夢中になっていました。

線香づくりに兄妹で参加した中平奉樹君（小学校4年生）と優心ちゃん（幼稚園年長）は「型抜きが楽しかった。作った線香はおじいちゃんのお墓参りで使います」と話してくれました。堺注染の体験教室に従妹どうしで参加した香西利咲ちゃん（小学校4年生）と岡井彩佳ちゃん（小学校1年生）は「布を輪ゴムで絞るのは難しかったけれど、きれいな柄になったのでうれしかった。夏休みの自主勉強として出します」と、笑顔で作品を見せてくれました。

今回のイベントは、子どもたちには夏休みの貴重な思い出になるとともに、保護者も含めて幅広い世代に堺の伝統産業の魅力を伝えることができました。



1	4	
2	5	7
3	6	

1.職人さんの指導を受けて線香づくりの「盆切り」にチャレンジ。2.3.線香を結束して、オリジナルの箱に詰めました。4.堺注染の職人さんたちが糊付けや染め上げをする作業を間近で見学。5.絞り染め体験では、鮮やかな色に染まる作業に子どもたちは夢中になっていました。6.絞り染めの作品を見せてくれた香西利咲ちゃん（右）と岡井彩佳ちゃん（左）。7.染め上げられた生地が立ち並ぶ「立て」（乾燥台）で説明される株式会社北山染工場の北山社長。

👑 ものを作る、明日を創る。

モノダン × モノジョ

堺市内で活躍する若手社員『モノダン(ものづくり男子)×モノジョ(ものづくり女子)』を毎号ご紹介します。



👤 芝雄大さん

小学生の時から父のお下がりパソコンをおもちゃ代わりにして育つ。「若い人には、ものづくりはブルーカラーで格好悪いと思われがち。技術をしっかり修得できれば、安定した収入が得られ、しかも夢があるのに、学校で子どもたちがそのことを教わることがないのが残念」と語る。

東日本大震災の衝撃で、超音波探傷検査の道へ。

大学の出身学部は文系。音楽の道を進もうとライブ活動で全国を飛び回っていたさなかに、転機となる大きな出来事がありました。

「ライブで東京に滞在中、東日本大震災に遭い、福島原発事故に大変な衝撃を受けました。非破壊検査は、原子力発電と密接な関わりをもって進展してきた技術なので、その時にこの仕事で自分も社会に貢献したいという思いに突き動かされたんです。カッコつけているようで、気恥ずかしいんですが(笑)」。

すぐに父の芝彰男社長が経営する計測工業に入社した芝雄大さん。今では、同

社が得意とする超音波探傷検査装置の設計・開発から組立、調整、営業、販売までを担う忙しい日々を送っています。

一部上場の重工業メーカーや検査企業から多くの相談や課題が持ち込まれるのを非常に高い技術で応え、信頼されているのを見ると、あらためて父への尊敬の念が深まったと語る雄大さん。

抱負は、「3年後の30歳までに、一つの案件を全て任せてもらえる一人前の技術者に」。そして、さらにその先では「今後需要が予測される、海をキーワードとした検査装置の開発を行い、事業を拡大していきたい」と夢は広がっています。



株式会社計測工業

非破壊検査の中でも超音波探傷検査技術に特化し、計測機器の電子回路の設計から、自動化のためのメカトロニクス制御設計、モニター表示のためのソフトウェア開発までをパッケージで提供できるのが強み。写真は、フェーズドアレイ搭載型・水中連続板厚測定ロボット。

本 社 / 堺市堺区神保通 2-12 TEL.072-227-7318
<http://www.keisoku1.com/>

東京インターナショナル・ギフト・ショー秋2014に出展

9月3日から5日まで東京ビッグサイトにおいて、日本最大級のパーソナルギフトと生活雑貨の国際見本市である「第78回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋2014」が開催され、来場者数は3日間で190,269人（海外来場者4,125人含む）にのびりました。

堺市ブースでは、市内の伝統産業関連企業6社による商品の展示・商談及び堺打刃物伝統工芸士による包丁研ぎの実演を実施しました。

堺市としては3回目の出展となりますが、今回は広い会場の中でも、メイン通路が交差する最高のロケーションで、多くの来場者が堺市ブースに足を止め、刃物・注染・和晒・線香の各企業が、商品の魅力と伝統の技を大いにアピールしました。

今後首都圏での伝統製品の市場開拓や認知度向上にますます期待が高まります。



立地・投資に対する優遇制度

堺市企業立地促進条例

企業投資を誘導することにより、雇用及び事業機会の拡大を図り、地域経済の活性化、産業の高度化、市民生活の向上に寄与することを目的とした制度。

■優遇内容

固定資産税（家屋、償却資産）、都市計画税（家屋）及び事業所税を軽減

- ① 投下固定資産額600億円以上→4/5軽減、最大5年間
- ② 投下固定資産額300億円以上→2/3軽減、最大5年間
- ③ 投下固定資産額10億円以上→1/2軽減、最大5年間
（中小企業は1億円以上→1/2軽減、最大5年間）

■対象業種

製造業／電気・ガス・熱供給・水道業（新エネルギー関連）
情報通信業／運輸業／学術、専門・技術サービス業

■対象地域

準工業地域、工業地域、工業専用地域

事業所設置に対する優遇制度

都心地域業務系機能集積促進事業補助金／中百舌鳥地域事業所集積促進事業補助金

企業等が指定地域（都心地域または中百舌鳥地域）に新たに事業所等を開設する場合等に賃料の一部を補助する制度。

■補助内容

- ①購入・建設の場合
土地・建物購入費、建設費の5%を補助（600万円限度）
- ②賃貸借の場合
立地後3年間の賃料の30%を補助（500万円限度）

■対象業種

製造業／情報通信業／運輸業／卸売業 等

■補助要件

- 次の①②のいずれかを満たすこと
- ① 事業所の従業員5人以上の常時雇用があること
 - ② 事業所の床面積50㎡以上の規模（中百舌鳥地域は20㎡以上）

詳しくは 堺市産業振興局商工労働部産業政策課 企業立地担当

TEL 072-228-7629 FAX 072-228-8816

「第3回さかい環境チャレンジ」認定企業のご紹介②

環境ビジネスに参入している堺市内の中小企業を「さかい環境チャレンジ企業」として認定しています。詳細は当センターホームページをご覧ください。認定企業を掲載した冊子は当センターで配布しております。



(株)榎田製作所

<噴霧ノズル>

主な事業内容：鍛造品切削加工

ポイント 鍛造品・鋳造品などの異形モノの高精度な切削加工を得意としてきた当社。蓄積された技術・ノウハウを生かし、μm単位の霧を発生させる噴霧ノズルを開発。

〒593-8315 堺市西区菱木2丁目2139
TEL 072-271-8611



(株)テクノタイヨー

<運動機器用負荷調整機能付きオイルダンパー>

主な事業内容：各種金属の切削加工、組立加工、オイルダンパーの開発・製造など

ポイント 小型化・省資源化ノウハウでオイルダンパーの可能性を追求。安全設計で高齢者向け、リハビリ用途にも。

〒599-8102 堺市東区石原町1-153
TEL 072-255-9559
URL : <http://www.techno-t.co.jp>



佐藤金属工業(株)

<大規模電力貯蔵システムに使用される金属プレス部品の製造>

主な事業内容：各種金属プレス部品の加工

ポイント 高精度のプレス加工で蓄電池容器キャップを製造。金型を内製し、高度なノウハウを蓄積。

〒590-0984 堺市堺区神南辺町5丁152-5
TEL 072-227-7715
URL : <http://www.satokk.com>



(株)日本鑄造技術研究所

<溶射加工および溶解・鑄造用フラックス>

主な事業内容：金属溶解・鑄造用フラックスの製造販売、溶射による表面処理など

ポイント 国内シェア70% 銅・銅合金用フラックスのエキスパート。インフラ分野を視野に溶射技術も拡大。

〒587-0061 堺市美原区今井209番
TEL 072-361-0190
URL : <http://www.nittyu-ken.com>



(有)スイサク

<100インチ以上の省エネディスプレイ>

主な事業内容：騒音・振動防止設備機器等の製造・販売およびメンテナンス

ポイント 独自の多孔質加工技術を生かした省エネディスプレイ。映像投影、防災に一石二鳥のプロジェクタ用スクリーン。

〒587-0065 堺市美原区小寺21-1
TEL 072-363-3056
URL : <http://www.rask.co.jp>



(株)三星製作所

<パイプの塑性加工技術>

主な事業内容：冷間塑性加工技術を生かした、パイプ・シャフトの独自加工技術の開発

ポイント 複数部品を1部品に自動車部品の工程減と軽量化。製造設備を内製し、生産性を向上さらなる軽量化の提案も。

〒587-0002 堺市美原区黒山457-1
TEL 072-361-3281
URL : <http://www.mstonbo.co.jp>



「CSR推進企業創出モデル事業」のご案内

平成26年度から、堺市産業振興センターでは、市内中小企業に対して、CSR (corporate social responsibility) の専門家を派遣し、取り組みに対する総合的な支援を行います。現在、支援対象企業2社を募集中です。詳細については、ホームページをご覧ください。

<CSRの推進>

経済的側面

社会的側面

環境的側面

<専門家による導入支援>年間2社

現状把握 ⇒ 導入支援 ⇒ アクションプラン作成

<期待できる効果>

企業価値の向上、従業員の確保・定着、トラブルの回避

お問い合わせ先

公益財団法人堺市産業振興センター経営支援課
〒591-8025 大阪府堺市北区長曾根町183-5 TEL 072-255-6700 FAX 072-255-1185
E-MAIL keiei_shien@sakai-ipc.jp <http://www.sakai-ipc.jp/>

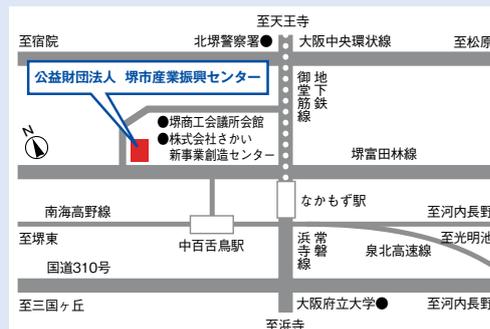
中小企業を
全力応援

公益財団法人

堺市産業振興センター

堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナーなど研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジンなどによる産業情報発信、イベントホールや会議室などの貸出事業と多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5
TEL.072-255-3311 (代) FAX.072-255-5200
<http://www.sakai-ipc.jp/>



◎南海高野線中百舌鳥駅より約300m◎地下鉄御堂筋線なかもず駅より約300m※駐車場は、隣接の来客用駐車場(無料)がございますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

さ
か
い



語
り

ぷるるん、ゼリーのような石けん

ぷるぷるとした触感と丸い形状。ゼリーのような「ひあるん玉せっけん」は、注文に生産が追いつかないほどの人気商品です。外の風船をピックで突くと、つるりと現れる意外性はもちろん、保湿成分のしっとり感がヒットの理由。

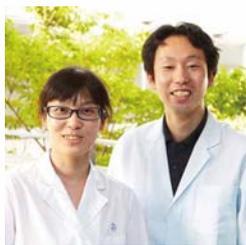
誕生のきっかけは、素材メーカーからタマリンドという食用の豆から抽出される成分の用途開発を依頼されたことでした。みやびコスメティックスの上路拓子さんは「タマリンドはすでに美容液などの保湿成分としてよく知られていましたが、多く使うと非常に固いゲル状になることがわかりました。そこで、それを逆手に保湿成分たっぷりの石けんにしてはどうかということになったんです」と語っています。これまでにない触感になることから、普通の四角

い石けんではつまらないと、玉羊羹をヒントに風船に充填して丸くすることに。ピックをつけるようにしたのは、「風船を自分で突きたい」というユーザーの声からだっただといひます。桜や果物の香りがする季節限定品を楽しみに待つファンも少なくありません。この秋、色とりどりの8種類に定番商品を充実させ、色と香りを選ぶ楽しみも増えました。



「いつまでも不思議そうにさわるのは、子どもと男性ですね(笑)」と谷口社長が語るように、もの珍しさから男性がギフト用に購入することも多いとか。そこで堺市産業振興センターの「堺発オリジナル商品魅力アップ支援事業」を活用し、シンプルで気品のあるギフト用パッケージが新たに製作された。

株式会社みやびコスメティックス



上路拓子さんと谷口雅幸社長

「くせ毛の自分に合うシャンプーがないのなら、自分で作る」と、化粧品などの処方開発を行う企業に就職した谷口雅幸社長。やがて、大量生産型の商品開発に、ものづくりとしての物足りなさを感じ始めました。「いい素材でも、自動化された製造工程に乗せられないものがあります。例えば、天然由来のものは処方のさじ加減を微妙に変えなければならず、そんな手作りにこだわった化粧品を作りたいと起業しました」。創業時からのパートナー、上路拓子さんは元同僚。「ケーキ屋さんのような小さな店を構え、対面式でお客様の悩みをうかがいながら、その方のためだけに処方した化粧品を提供したい」。手作りにこだわる谷口社長の夢です。

- 本社 / 堺市北区長曾根町130-42 新事業創造センター S-Cube223号 ☎0120-976-381
- URL / <http://www.miyabicosme.co.jp/>

「メイドインさかいフェア2014」 に出品!

「ひあるん玉せっけん」は、同社ホームページから購入できるほか、「メイドインさかいフェア2014」でも購入できます。ぜひ、実物の不思議な触感をお確かめください。

【メイドインさかいフェア2014】

日時 / 2014年11月8日(土)～9日(日)
10:00～16:00

会場 / 堺市産業振興センターイベントホール
<http://sakaicci.or.jp>